

人材育成コース 3日目資料

令和3年度 相談支援従事者指導者養成研修
日時：2021年9月17日（3日目）

演習① 法定研修における実地教育の検討

10:40-12:00

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 目的と流れについて | 10:40-10:50 |
| 2. 個人ワーク | 10:50-11:10 |
| 3. グループワーク | 11:10-12:00 |

演習①の目的と内容

〈目的〉

法定研修における実地教育（別称：インターバル）を考え、自身の都道府県の法定研修における実地教育に関する気付きを得る。

〈内容〉

- ① 自身の相談支援専門員になった時の経験や自身の都道府県の法定研修における実地教育について振り返る。
- ② 仮想となるA県をモデルとし、法定研修における実地教育を考える。

演習①のスケジュール

時間	内容
10:40-10:50	目的と流れについて
10:50-11:10	個人ワーク ① 初任者研修を受けた後の自分の動きの振り返り ② 自身の都道府県の初任者研修における実地教育の取り組みと課題（事前課題の確認）
11:10-12:00	グループワーク（ブレイクアウトセッション） ① 自己紹介 ② 個人ワークの共有 ③ A県の初任者研修の実地教育のデザインについての検討

グループワークの時間の目安

時間	内容
11:10-11:15	自己紹介
11:15-11:30	個人ワークの共有 ① 初任者研修を受けた後の自分の動きの振り返り ② 自身の都道府県の初任者研修における実地教育の取り組みと課題（事前課題の確認）
11:30-12:00	A県の初任者研修の実地教育のデザインについての検討

個人ワーク①

10:50-11:10

自分が初任者研修を受けた後、いざ、相談支援の現場に入ったことを思い出してみてください。
その時、どのような思いでしたか？また、どんなことに困り、どのように解決したのかを思い出してみましょう。

- どんな思い？
- どんなことに困った？
- 困ったことをどのように解決した？

個人ワーク②

10:50-11:10

ご自身の都道府県で実施している初任者研修におけるインターバル実施に関して、取り組んでいる内容、課題となっていることについて、事前課題としてまとめた内容を確認してみましょう。

--

グループワークの時間の目安

時間	内容
11:10-11:15	自己紹介
11:15-11:30	個人ワークの共有 ① 初任者研修を受けた後の自分の動きの振り返り ② 自身の都道府県の初任者研修における実地教育の取り組みと課題（事前課題の確認）
11:30-12:00	A県の初任者研修の実地教育のデザインについての検討

A県の概要について

人口 地域	約150万人 大都市のあるB県に隣接している。県庁所在地のC市は人口約30万人で中核市に位置づく。C市を含め、25の市町村がある。
相談支援 体制	大きく10の圏域に分かれ、相談支援体制が構築されている。このうち、相談支援を単独で実施しているのは県庁所在地のC市を含め、2市。残りは圏域で実施。主任相談支援専門員は県内に6人。圏域全てにいないわけではない。基幹相談支援センターは単独で実施している1市と5圏域には設置されているが、全ての圏域に設置されていない。
研修体制	研修運営は県社協に委託されている。圏域から各1名の相談支援専門員が選出され、初任者研修、現任者研修の検討会議が設置されている。

A県のインターバルの現状

〈実習1について〉

所属長への確認を認めているため、ほとんどの受講生が所属長の確認を受けている。ただ、ニーズ整理に関する所属長等への研修等は実施していない。

〈実習2について〉

協議会に参加する受講生が多いが、基幹相談支援センターが設置されていない圏域では調整者が不在のため、日程が合わない場合がある。

演習②

法定研修における実地教育と業務実施地域における実地教育の連動

13:00-14:15

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 目的と流れについて | 13:00-13:05 |
| 2. 個人ワーク | 13:05-13:20 |
| 3. グループワーク | 13:20-14:15 |

演習②の目的と内容

〈目的〉

法定研修における実地教育と業務実施地域における実地教育との連動を考え、自身の都道府県及び業務実施地域の体制整備に関する気付きを得る。

〈内容〉

- ① 自身の都道府県の人材育成ビジョンの修正点を考える。
- ② 仮想となるA県D圏域をモデルとして、それぞれの相談支援事業所にどのような役割が必要かを考える。

演習②のスケジュール

時間	内容
13:00-13:05	目的と流れについて
13:05-13:20	個人ワーク 午前中に考えた法定研修における実地教育を導入することを想定して・・・ ① 自身の都道府県の人材育成ビジョンの修正点について考える ② A県D圏域の各相談支援事業所の役割を考える
13:20-14:15	グループワーク（ブレイクアウトセッション） ① 個人ワーク①の共有 ② 個人ワーク②の共有 ③ 法定研修における実地教育と業務実施地域における実地教育の連動を考える

個人ワーク①

13:05-13:20

法定研修における実地教育を導入することによって、自身の都道府県の人材育成ビジョンの修正点が必要な場合はどんな点に修正が必要かを考える。人材育成ビジョンの変更をした都道府県はどのような点を変更したのか記載する。

--

個人ワーク② A県D圏域の概要

13:05-13:20

A県D圏域は1市2町から構成されている。3市町合わせて人口約20万人程度で、最も大きいE市は人口約10万人である。
D圏域の相談支援体制は以下のとおり。

- 基幹相談支援センター：主任、相談支援専門員の2名
- 委託相談支援事業所：4か所を地域ごとに整備（E市に2か所、2町に1か所ずつ）。1名配置。中堅からベテランの相談員。
- 特定相談支援事業所：15事業所。1人職場の事業所が5事業所ある。2人以上の相談支援専門員がいても専任の相談員が2人以上の事業所は少ない。

個人ワーク② A県D圏域の概要②

13:05-13:20

- 基幹相談支援センター
体制整備、協議会の運営、人材育成、困難事例の対応等が役割になっている。事業所連絡会を月1回開催し、委託・特定事業所全てが参加してくれるが、毎回何を行うかを考えるのが大変。地域の相談員の電話での相談等に応じているが、スーパービジョンとは言い難いと感じている。
- 委託相談支援事業所
初期相談の窓口となっている。また主に総合支援法のサービスにつながらない相談者への対応を継続している。地域に所在する特定事業所の勉強会等を企画しているが、全ての地域で行っているわけではない。
- 特定相談支援事業所
約30人ぐらいの相談支援専門員が所属している。10年以上のベテラン相談員が5人ぐらいいて、基幹や委託のサポートをしてくれる時もある。一方、1人職場の中には経験の浅い相談員もいる。

グループワークの時間の目安

時間	内容
13:20-13:30	個人ワーク①の共有 自身の都道府県の人材育成ビジョンの修正点
13:30-14:15	個人ワーク②の共有 A県D圏域の各相談支援事業所の役割 法定研修における実地教育とA県D圏域の実地教育の連動として、どのような取り組みが考えられるか、話し合ってみましょう。

演習③ 振り返り

14:20-15:00

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 目的と流れについて | 14:20-14:21 |
| 2. 個人ワーク | 14:21-14:35 |
| 3. グループワーク | 14:35-14:55 |
| 4. まとめ | 14:55-15:00 |

演習③の目的とスケジュール

〈目的〉

15日、16日、17日と行ってきた研修で得た気づきを言語化し、自身の都道府県に戻って何をするか自身の言葉にする。

1. 目的と流れについて	14:20-14:21
2. 個人ワーク	14:21-14:35
3. グループワーク	14:35-14:55
4. まとめ	14:55-15:00

個人ワーク①

- 午前は法定研修における実地教育を考えました。その際の気づきを言語化してみましょう。

- 午後は業務実施地域における実地教育を考えました。その際の気づきを言語化してみましょう。

個人ワーク②

- 本研修の気付きから、法定研修における実地教育と業務実施地域における実地教育の連動するにあたり、今後の目標（何を目指すか）を考えてみましょう。

● 目標

● 目標を達成するための具体的な行動⇒時間があれば、考えてみてください